

授業計画書

基本情報	科目名称	解剖学Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	通年（前期）	2年	4	80
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	青木 良仁					青木 良仁

教科書	『解剖学』 南江堂
参考文献・資料等	「解剖学ワークブック」 医歯薬出版株式会社

授業の方法及び内容	1年次の講義と同じように内臓系や神経系に関して初学の生徒が多いため、専門用語や三次元的な構造などを覚えてもらうことを心がけ、この学習分野の面白さを知ってもらうことで学習意欲を高めていく。
到達目標	基礎知識として内臓系、神経系の名称や動きを身につけてもらい、同時期に習得する教科の基礎学力を築いてもらう。
準備学習の内容	内臓系や神経系は苦手意識を持つ生徒が多いため、興味を持ってもらえるよう様々なトピックスを提供し、それに関わる書籍等を紹介し知識を増やしてもらう。
授業期間全体を通じた授業の進め方	2年目で学習に慣れてきていると想定されるため個人での学習の習慣を見に付けてもらいながら進めていく。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

授業計画

1	消化器：口腔、食道
2	消化器：腸、肝臓、膵臓
3	呼吸器：鼻腔、咽頭、喉頭
4	呼吸器：気管、肺
5	泌尿器：腎臓、尿管
6	泌尿器：膀胱、尿道
7	男性生殖器：精嚢、精管
8	男性生殖器：陰茎、陰嚢
9	女性生殖器：卵巣、子宮
10	女性生殖器：膣、外陰部、胎盤
11	内分泌器：下垂体、甲状腺
12	内分泌器：上皮小体、副腎、膵臓
13	内分泌器：精巣、卵巣
14	神経の基礎
15	神経組織
16	硬膜と脳脊髄液
17	脳：終脳、間脳
18	脳：中脳、小脳
19	期末試験
20	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	解剖学Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	通年（後期）	2年	(4)	(80)
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	青木 良仁					青木 良仁

教科書	『解剖学』 南江堂
参考文献・資料等	「解剖学ワークブック」 医歯薬出版株式会社

授業の方法及び内容	1年次の講義と同じように内臓系や神経系に関して初学の生徒が多いため、専門用語や三次元的な構造などを覚えてもらうことを心がけ、この学習分野の面白さを知ってもらうことで学習意欲を高めていく。
到達目標	基礎知識として内臓系、神経系の名称や動きを身につけてもらい、同時期に習得する教科の基礎学力を築いてもらう。
準備学習の内容	内臓系や神経系は苦手意識を持つ生徒が多いため、興味を持ってもらえるよう様々なトピックスを提供し、それに関わる書籍等を紹介し知識を増やしてもらう。
授業期間全体を通じた授業の進め方	2年目で学習に慣れてきていると想定されるため個人での学習の習慣を見に付けてもらいながら進めていく。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	脊髄：区分
2	脊髄：伝導路
3	脳神経：嗅神経～外転神経
4	脳神経：顔面神経～舌下神経
5	脊髄神経：神経後枝～胸神経
6	脊髄神経：腰神経叢～デルマトーム
7	自律神経系
8	感覚器：皮膚、筋、腱の感覚神経
9	感覚器：眼球、副眼器
10	感覚器：聴覚器
11	感覚器：味覚器、嗅覚器
12	体表解剖：区分、骨格系
13	体表解剖：筋系、脈管系
14	体表解剖：神経系
15	体表解剖：外皮、生体計測
16	映像解剖
17	復習
18	復習
19	期末試験
20	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	生理学Ⅱa			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	通年（前期）	2年	4	(80)
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	山 美喜子					山 美喜子

教科書	『生理学』 南江堂
参考文献・資料等	人体の正常構造と機能 日本医事新報社 病気がみえる

授業の方法及び内容	臓器器官の構造、働きについて解説し、国家試験形式の演習を行う。
到達目標	上記項目の柔道整復師にとっての重要性を理解すると同時に、国家試験の出題傾向を把握する。
準備学習の内容	授業と関連した内容の事前課題の取り組み。
授業期間全体を通じた授業の進め方	毎授業ごとに理解度の確認のための小テストを行う。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	1 生理学の基礎 ホメオスタシス 身体を構成するタンパク質の種類と働き
2	1 生理学の基礎 糖質 脂質 細胞の構造と働き 1
3	1 生理学の基礎 細胞の構造と働き 2
4	1 生理学の基礎 物質の移動 (拡散、浸透、ろ過、エンドサイトーシス、エクソサイトーシス)
5	3 循環の生理 心臓の構造 心筋の性質
6	3 循環の生理 興奮伝導系 心周期
7	3 循環の生理 心電図 血管の種類と働き
8	3 循環の生理 血圧の調節 1
9	3 循環の生理 血圧の調節 2
10	6 栄養と代謝 栄養素 (糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)
11	6 栄養と代謝 ATP の合成
12	6 栄養と代謝 エネルギー代謝
13	9 内分泌 内分泌とは ホルモンの分類
14	9 内分泌 下垂体 (前葉、後葉) 分泌調節 (階級支配)
15	9 内分泌 甲状腺 1 (構造、甲状腺ホルモンの種類、作用)
16	9 内分泌 甲状腺 2 (甲状腺ホルモンの分泌異常) 血中カルシウムイオン濃度の調節 1
17	9 内分泌 血中カルシウムイオン濃度の調節 2 副腎皮質 1 (コルチゾールの作用)
18	16 内分泌 副腎皮質 2 (レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系)
19	期末試験
20	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	生理学Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	通年（後期）	2年	(4)	(80)
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	山 美喜子					山 美喜子

教科書	『生理学』 南江堂
参考文献・資料等	人体の正常構造と機能 日本医事新報社 病気がみえる

授業の方法及び内容	臓器器官の構造、働きについて解説し、国家試験形式の演習を行う。
到達目標	上記項目の柔道整復師にとっての重要性を理解すると同時に、国家試験の出題傾向を把握する。
準備学習の内容	授業と関連した内容の事前課題の取り組み。
授業期間全体を通じた授業の進め方	毎授業ごとに理解度の確認のための小テストを行う。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	9 内分泌 副腎髄質 カテコールアミンの特徴と作用 膵臓 糖代謝
2	9 内分泌 膵臓 インスリンの作用 糖尿病1
3	9 内分泌 糖尿病2
4	10 性染色体 性分化
5	10 卵子の形成 性周期 1
6	10 性周期2 妊娠と分娩
7	10 男性生殖器 (構造と機能)
8	11 骨の生理学 骨の成長 骨代謝 1
9	11 骨の生理学 骨代謝 2
10	15 筋肉の機能 筋の分類 骨格筋の作用
11	15 筋肉の機能 興奮収縮連関
12	15 筋肉の機能 筋の長さ と張力 筋の長さ と張力
13	14 神経系 神経系の分類 中枢神経系 脊髄1
14	14 神経系 中枢神経系 脊髄2
15	14 神経系の機能 中枢神経系 脳幹 (構造と機能)
16	14 神経系の機能 中枢神経系 間脳 小脳1
17	14 神経系の機能 小脳2 大脳基底核 (構成成分と機能)
18	14 神経系の機能 大脳皮質 (構造、機能局在、運動野の特徴と機能)
19	期末試験
20	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	一般臨床医学 I			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	前期	2年	2	40
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	渡邊 利明					渡邊 利明

教科書	『一般臨床医学』 医歯薬出版株式会社
参考文献・資料等	

授業の方法及び内容	講義を中心として一般臨床医学の実践（実習）をも含み進行させる。
到達目標	1) テキストに記載される重要基礎用語である「太字用語」説明できる。 2) 柔道整復師国家試験出題基準の内容を消化し、簡単に説明できる。
準備学習の内容	1) 前回提示されたテキスト内容を読み内容を把握する。 2) 指示されたノートの書式を形成する。（講義内容を右頁へ、復習内容を左頁へ記載する。）
授業期間全体を通じた授業の進め方	1) 小テスト、中間テスト、期末テストによる評価を前提とし、ノートを重要視する。 2) カルテの記載方法に関連して、目前にある疾患を想定して学問を進める。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	ガイダンス 診察概論
2	診察各論 問診 視診 視診の意義と方法～皮膚の状態
3	診察各論 視診 頭部
4	診察各論 視診 顔面の視診～四肢の視診
5	診察各論 打診
6	診察各論 聴診
7	診察各論 触診
8	診察各論 血圧測定法実習
9	診察各論 生命徴候 1
10	診察各論 生命徴候 2
11	中間試験
12	診察各論 知覚検査
13	診察各論 反射検査 1
14	診察各論 反射検査 2
15	診察各論 代表的な臨床症状 1
16	診察各論 代表的な臨床症状 2
17	検査法
18	演習
19	期末試験解説
20	期末解説

授業計画書

基本情報	科目名称	一般臨床医学Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	後期	2年	2	40
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	渡邊 利明					渡邊 利明

教科書	『一般臨床医学』 医歯薬出版株式会社
参考文献・資料等	

授業の方法及び内容	講義を中心として一般臨床医学の実践（実習）をも含み進行させる。
到達目標	1) テキストに記載される重要基礎用語である「太字用語」説明できる。 2) 柔道整復師国家試験出題基準の内容を消化し、簡単に説明できる。
準備学習の内容	1) 前回提示されたテキスト内容を読み内容を把握する。 2) 指示されたノートの書式を形成する。（講義内容を右頁へ、復習内容を左頁へ記載する。）
授業期間全体を通じた授業の進め方	1) 小テスト、中間テスト、期末テストによる評価を前提とし、ノートを重要視する。 2) カルテの記載方法に関連して、目前にある疾患を想定して学問を進める。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	呼吸器疾患 1
2	呼吸器疾患 2
3	循環器疾患 1
4	循環器疾患 2
5	消化器疾患 (消化管)
6	消化器疾患 (胆・膵・腹膜疾患)
7	代謝栄養疾患
8	内分泌疾患 (前半)
9	内分泌疾患 (後半)
10	血液・造血器疾患
11	中間試験
12	腎・尿路疾患
13	神経疾患 1
14	神経疾患 2
15	感染症・性感染症
16	リウマチ疾患・アレルギー疾患
17	免疫不全症 環境要因による疾患
18	演習
19	期末試験解説
20	期末解説

授業計画書

基本情報	科目名称	外科学概論			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	前期・後期前半 前期	2年	3	60
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	柳澤 雅弘					柳澤 雅弘

教科書	『外科学概論』 南江堂
参考文献・資料等	毎回、配布資料を配ります。

授業の方法及び内容	柔道整復師として患者の疾患を治療できるようになるために、外科学の基礎的知識も必要であるため、外科学の基礎知識を習得する。
到達目標	1. 骨折や脱臼の状態から、外科的な疾患として内臓や血管、神経、筋肉の損傷が推定できるようになる。 2. 外科的な疾患名を聞いて、その疾患がどのようなものか言えるようになる。
準備学習の内容	解剖
授業期間全体を通じた授業の進め方	配布資料を配り、パワーポイントを使って説明します。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中 60点以上合格 平常点 0点またはマイナス 10点		

授業計画

1	損傷	教科書 P5～22
2	炎症	教科書 P23～32
3	腫瘍	教科書 P33～49
4	子宮頸癌、前立腺癌、皮膚癌	
5	肺癌、胃癌、大腸癌	
6	ショック	教科書 P51～55
7	輸血、輸液	教科書 P57～71
8	消毒と滅菌	教科書 P73～75
9	手術	教科書 P77～84
10	麻酔	教科書 P85～94
11	移植と免疫	教科書 P95～100
12	アレルギー性疾患	
13	出血と止血	教科書 P101～111
14	心肺蘇生法	教科書 P113～120
15	脳神経外科疾患-1	教科書 P123～137
16	脳神経外科疾患-2	教科書 P137～140
17	末梢神経疾患	
18	甲状腺・頸部疾患	教科書 P141～143
19	期末試験	
20	試験解説	

授業計画書

基本情報	科目名称	外科学概論			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	前期・後期前半 後期（前半）	2年	(3)	(60)
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	柳澤 雅弘					柳澤 雅弘

教科書	『外科学概論』 南江堂
参考文献・資料等	毎回、配布資料を配ります。

授業の方法及び内容	柔道整復師として患者の疾患を治療できるようになるために、外科学の基礎的知識も必要であるため、外科学の基礎知識を習得する。
到達目標	1. 骨折や脱臼の状態から、外科的な疾患として内臓や血管、神経、筋肉の損傷が推定できるようになる。 2. 外科的な疾患名を聞いて、その疾患がどのようなものか言えるようになる。
準備学習の内容	解剖
授業期間全体を通じた授業の進め方	配布資料を配り、パワーポイントを使って説明します。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中 60点以上合格 平常点 0点またはマイナス 10点		

授業計画

1	胸壁・呼吸器疾患	教科書 P145～158
2	心臓疾患—1	教科書 P159～167
3	心臓疾患—2	教科書 P167～169
4	脈管疾患	教科書 P169～176
5	乳腺疾患	教科書 P177～184
6	腹部外科疾患—1	教科書 P185～214
7	腹部外科疾患—2	教科書 P214～227
8	腹部外科疾患—3	腹部画像
9	期末試験	
10	試験解説	

授業計画書

基本情報	科目名称	整形外科学			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	前期	2年	2	40
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	柳澤 雅弘					柳澤 雅弘

教科書	『整形外科学』 南江堂
参考文献・資料等	毎回 配布資料を配ります。

授業の方法及び内容	柔道整復師として患者の疾患を治療できるようになるために、整形外科学の診断・治療に必要な基礎的知識を習得するとともに、それに必要な技術を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の症状から骨の損傷の程度、関節の脱臼の有無が診断できる。 2. 同時に合併症としての神経の障害の有無が診断できる。 3. さらにこの時、血管の損傷についても診断できる。
準備学習の内容	骨、神経、血管の解剖
授業期間全体を通じた授業の進め方	配布資料を配り、パワーポイントを使って説明します。

評価前提条件	単位認定に必要となる最低出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

授業計画

1	骨、関節の基礎知識	教科書 P 3～8
2	筋・靭帯・腱の基礎知識 運動器の科学	教科書 P 8～14
3	整形外科診察法	教科書 P 15～21
4	整形外科検査法	教科書 P 23～40
5	整形外科治療法	教科書 P 41～54
6	骨・関節損傷総論	教科書 P 55～71
7	スポーツ整形外科総論、骨腫瘍	教科書 P 73～97
8	軟部腫瘍 非感染性軟部・骨関節疾患 全身性の骨・軟部疾患	教科書 P 97～126
9	骨端症 四肢循環障害	教科書 P 126～135
10	神経・筋疾患	教科書 P 136～148
11	頸部	教科書 P 149～157
12	胸部、腰部	教科書 P 158～169
13	肩関節・肩甲帯	教科書 P 170～187
14	上腕・肘関節 前腕	教科書 P 188～204
15	手関節 手・手指	教科書 P 204～215
16	骨盤・股関節	教科書 P 216～230
17	大腿・膝関節	教科書 P 230～246
18	下腿・足関節 足・足趾	教科書 P 246～264
19	期末試験	
20	試験解説	

授業計画書

基本情報	科目名称	病理学概論			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	前期後半・後期 (前期 (後半))	2年	3	60
	授業担当者 (所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	山 美喜子					山 美喜子

教科書	『病理学概論』 医歯薬出版株式会社
参考文献・資料等	人体の正常構造と機能 日本医事新報社 病気がみえる

授業の方法及び内容	病理学の基礎的内容と、柔道整復師の業務や国家試験と関連の強い内容を重点的に解説する。
到達目標	病理学の柔道整復師にとっての重要性を理解すると同時に、国家試験の出題傾向を把握する。
準備学習の内容	授業と関連した内容の課題の提出、口頭試問
授業期間全体を通じた授業の進め方	毎授業ごとに理解度の確認のための小テストを行う。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	1 病理学とは 解剖の種類 染色法 2 疾病の一般 病理学の用語
2	3 細胞傷害 退行性病変とは 代謝障害とは、萎縮、変性（分類）
3	3 細胞傷害 代謝障害と疾病 痛風、黄疸
4	3 細胞傷害 代謝障害と疾病 糖尿病
5	3 細胞傷害 壊死とアポトーシス 4 血液循環障害 充血、うっ血（症状）
6	4 循環障害 血液循環障害 虚血、出血（分類、出血性素因）、血栓症
7	4 循環障害 血液循環障害 塞栓症、梗塞 浮腫の成因
8	5 進行性病変 肥大、過形成、再生（細胞の再生能力）
9	期末試験
10	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	病理学概論 b			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	通年 (後期)	2 年	(3)	(60)
	授業担当者 (所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	山 美喜子					山 美喜子

教科書	『病理学概論』 医歯薬出版株式会社
参考文献・資料等	人体の正常構造と機能 日本医事新報社 病気がみえる

授業の方法及び内容	病理学の基礎的内容と、柔道整復師の業務や国家試験と関連の強い内容を重点的に解説する。
到達目標	病理学の柔道整復師にとっての重要性を理解すると同時に、国家試験の出題傾向を把握する。
準備学習の内容	授業と関連した内容の課題の提出、口頭試問
授業期間全体を通じた授業の進め方	毎授業ごとに理解度の確認のための小テストを行う。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

授業計画

1	5 進行性病変 化生、肉芽組織の増殖（創傷（骨折）の治癒）
2	5 進行性病変 肉芽組織の増殖（異物の処理）、移植
3	6 炎症 炎症とは、原因、形態学的変化
4	6 炎症 炎症における循環障害
5	6 炎症 炎症の分類（滲出性炎）
6	6 炎症 炎症の分類（特異性炎）
7	7 免疫異常 自然免疫と獲得免疫、免疫担当細胞
8	7 免疫異常 抗体（働きと種類）、免疫不全
9	7 免疫異常 自己免疫疾患（代表的疾患）、アレルギーとは
10	7 免疫異常 アレルギーの分類
11	8 腫瘍 腫瘍細胞の特徴、腫瘍の良性と悪性、転移とは
12	8 腫瘍 発癌の原因、診断
13	8 腫瘍 組織学的分類
14	9 先天性異常 分類、遺伝子、染色体とは
15	9 先天性異常 遺伝性疾患（遺伝形式による分類、代表的疾患）
16	9 先天性異常 染色体異常（分類、代表的疾患）
17	10 病因 内因、外因（栄養障害、物理的外因）
18	10 病因 外因（化学的外因、生物学的的外因（感染症））
19	期末試験
20	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	リハビリテーション医学			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	後期	2年	2	40
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	竹内 仁					竹内 仁

教科書	『リハビリテーション医学』 南江堂
参考文献・資料等	『標準リハビリテーション医学』

授業の方法及び内容	教科書を主として配布プリント、パワーポイントを使い、学生への質問も取り入れる。
到達目標	リハビリテーション医学の概略と実際に行われる評価、診断、治療について理解させ、柔道整復師の行う施術との関連を理解させる。
準備学習の内容	資料を用いた予習と復習
授業期間全体を通じた授業の進め方	医学的リハビリテーションについての理解を深めるため、実技を踏まえながら授業を行う。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

授業計画

1	リハビリテーションの概念と歴史 医学的リハビリテーションとその対象
2	リハビリテーション医学の基礎医学 運動学と機能解剖
3	リハビリテーション医学の基礎医学 障害学 治療学
4	リハビリテーション医学の評価と診断 身体計測 ROM測定 MMT
5	リハビリテーション医学の評価と診断 中枢性障害の評価法 小児運動発達の評価法
6	リハビリテーション医学の評価と診断 協調性テスト 失認と失行の評価法 心理評価
7	リハビリテーション医学の評価と診断 ADL評価 電気生理学的診断法 画像診断
8	リハビリテーションの治療 理学療法 運動療法 物理療法
9	リハビリテーションの治療 理学療法 牽引 マッサージ
10	リハビリテーションの治療 作業療法 補装具 装具 義肢
11	リハビリテーションの治療 作業療法 補装具 移動補助具 自助具と介護機器
12	リハビリテーションの治療 言語療法 リハビリテーション医学と関連職種
13	リハビリテーションの実際 脳卒中 脊髄損傷
14	リハビリテーションの実際 小児疾患
15	リハビリテーションの実際 切断 末梢神経損傷
16	リハビリテーションの実際 関節リウマチ 整形外科疾患
17	リハビリテーションの実際 心疾患 呼吸器疾患
18	老人のリハビリテーション リハビリテーションと福祉
19	期末試験
20	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	衛生学・公衆衛生学Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	前期（前半）	2年	1	20
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	若山 葉子					若山 葉子

教科書	『衛生学・公衆衛生学』 南江堂
参考文献・資料等	国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会

授業の方法及び内容	テキストを中心に、スライド・参考資料を用いて講義を行う。直近の公衆衛生学的話題、社会の動向についても解説を加える。適宜小テスト等を実施し理解度を確認する。
到達目標	将来地域社会で保健・医療・福祉の一端を担うにふさわしい、公衆衛生学的学識と教養を確実に身につけ、国家試験合格を目指す。自身の社会的役割・責任・貢献等について考えを深める。
準備学習の内容	予定される授業内容のテキスト範囲に目を通し、授業展開の概要を把握する。他の基礎科目との関連についても理解しておく。保健・医療・福祉分野の社会的動向等について、種々のメディアを通して情報を受け止めておく。
授業期間全体を通じた授業の進め方	一方向の知識・情報の伝達ではなく、双方向の意思疎通をはかり、学生の理解度を確認しながら進める。国家試験の動向・傾向を踏まえ、ポイントを示唆する。講義ごとに重要事項を各自まとめる。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	成人・高齢者保健：特定健康診査 後期高齢者医療制度 介護保険制度 精神保健：主な精神疾患 医療 精神保健対策
2	地域保健と衛生行政：保健所の設置と事業 市町村保健センター 市町村の事業 地域保健活動の進め方：PDCA サイクル 公衆衛生的アプローチ プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション
3	保健医療の制度：医療施設 医療補保障制度（医療保険、公費医療） 国民医療費：推移と現状 医療費内訳 財源別内訳
4	国際保健：国際保健協力 国際機関 WHO 各種国際条約 医療の倫理と安全確保：インフォームドコンセント 情報保護 医療機関の安全対策
5	疫学（1）：集団の把握 疫学の基本指標 人年法 疫学の効果指標 疫学の進め方 疫学研究のデザイン
6	疫学（2）：観察研究 記述疫学 分析疫学（コホート研究・症例対照研究）介入研究 結果の評価 バイアスと交絡
7	疫学（3）：因果関係 エビデンス スクリーニング 感度 特異度
8	学期のまとめ 重要事項の確認
9	期末試験
10	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	職業倫理			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	後期（後半）	2年	1	20
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	竹内 仁					竹内 仁

教科書	『社会保障制度』
参考文献・資料等	『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』 全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社

授業の方法及び内容	教科書、配布プリントを参照し、パワーポイントを用いて行う
到達目標	柔道整復師に必要な基本的倫理感と患者への対応
準備学習の内容	前回の復習を指示する
授業期間全体を通じた授業の進め方	教科書、配布プリントを参照して行う 積極的授業態度を期待し、学生への質問も行う

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中 60点以上合格 平常点 0点またはマイナス 10点		

授業計画

1	医療従事者の職業倫理とは
2	柔道整復師に必要な職業倫理感
3	医療従事者における守秘義務とインフォームドコンセント
4	柔道整復師の社会的責任と対応
5	柔道整復業界が抱える問題、柔道整復師の社会貢献と今後の課題
6	臨床現場トラブルケーススタディ 患者への対応 I、II
7	臨床現場トラブルケーススタディ 患者への対応 III、IV
8	医療における情報と責任
9	期末試験
10	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	柔道Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	実技	前期	2年	1	40
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	水村 麻輝			接骨院等勤務：8年 専門学校等勤務：1年2ヶ月		水村 麻輝

教科書	『柔道大辞典』アテネ書房
参考文献・資料等	

授業の方法及び内容	実際に柔道を実技として行い礼儀作法、受身の技術の習得。
到達目標	柔道の認定実技審査の技術の習得。
準備学習の内容	準備運動。
授業期間全体を通じた授業の進め方	実際に柔道を行う。

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	柔道衣の着方、マナーについて
2	礼法 柔道衣の着方
3	礼法 基本動作 後受身
4	礼法 基本動作 後受身 横受身
5	礼法 基本動作 後受身 横受身 前受身
6	受身の復習
7	認定実技の流れの説明
8	受身通しでの練習
9	中間試験
10	礼法 受身 手技
11	礼法 受身 手技
12	礼法 受身 手技
13	礼法 受身 手技
14	投の形通しで練習
15	礼法 受身 腰技
16	礼法 受身 腰技
17	試験前練習
18	期末試験
19	試験解説
20	総復習

授業計画書

基本情報	科目名称	社会保障制度			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門基礎分野	講義	後期（前半）	2年	1	20
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	竹内 仁					竹内 仁

教科書	『社会保障制度』
参考文献・資料等	『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』 全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社

授業の方法及び内容	教科書、配布プリントを参照し、説明する パワーポイントも活用する
到達目標	医療従事者として、医療保険制度、柔道整復療養費について学び、適正な療養費支給申請を理解する
準備学習の内容	前回の復習を指示する
授業期間全体を通じた授業の進め方	教科書、配布プリントを参照して行う 積極的授業態度を期待し、学生への質問も行う

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中 60点以上合格 平常点 0点またはマイナス 10点		

授業計画

1	社会保障制度とは 社会保障の3つの機能
2	公的年金制度の仕組み
3	介護保険の意義と仕組み
4	医療保険の概要
5	医療保険制度と柔道整復師
6	診療報酬制度 療養費とは
7	柔道整復師業務における療養費
8	療養費請求のケーススタディ
9	期末試験
10	試験解説

授業計画書

基本情報	科目名称	臨床柔道整復学Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	講義	前期	2年	4	80
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	小田 敏明			接骨院等勤務：9年 専門学校等勤務：9年		小田 敏明

教科書	『柔道整復学・理論編・実技編』南江堂
参考文献・資料等	『解剖学』南江堂

授業の方法及び内容	教科書で学び、プリントにまとめ、学習成果を国家試験過去問題にて確認する。 担当教員は医療施設(接骨院・整形外科等)において、9年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。
到達目標	下肢の損傷について、①分類②発生機所③症状④治療法⑤合併症を患者に説明できるようになる。また該当部位の、①骨(名称)②筋(起始・停止・作用)③神経(支配領域)を何も見ずに記述することができるようになる。
準備学習の内容	該当範囲の解剖学(骨・筋・神経)
授業期間全体を通じた授業の進め方	単元毎に小テストを実施し、学習到達度を確認する。

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

臨床柔道整復学Ⅱ（前期）授業計画

1	オリエンテーション（シラバス、授業の進め方、評価方法）
2	骨盤部の損傷 A 解剖と機能
3	骨盤部の損傷 B 骨盤骨骨折 1 骨盤骨単独骨折
4	骨盤部の損傷 B 骨盤骨骨折 2 骨盤骨輪骨折
5	骨盤部の損傷 C 注意すべき疾患
6	股関節部の損傷 A 解剖と機能
7	股関節部の損傷 B 大腿骨近位部の骨折 1 大腿骨近位端部骨折（骨頭部骨折）
8	股関節部の損傷 B 大腿骨近位部の骨折 1 大腿骨近位端部骨折（頸部骨折①）
9	股関節部の損傷 B 大腿骨近位部の骨折 1 大腿骨近位端部骨折（頸部骨折②）
10	股関節部の損傷 B 大腿骨近位部の骨折 1 大腿骨近位端部骨折（大転子骨折、小転子骨折）
11	股関節部の損傷 B 大腿骨近位部の骨折 1 大腿骨近位端部骨折（まとめ）
12	股関節部の損傷 C 股関節脱臼 1 後方脱臼
13	股関節部の損傷 C 股関節脱臼 2 前方脱臼
14	股関節部の損傷 C 股関節脱臼 3 中心性脱臼
15	股関節部の損傷 D 股関節の軟部組織損傷 1 鼠径部痛症候群 2 股関節唇損傷
16	股関節部の損傷 D 股関節の軟部組織損傷 3 弾発股 4 梨状筋症候群 5 その他
17	股関節部の損傷 E 注意すべき疾患 1 乳幼児期にみられる疾患 2 思春期にみられる疾患
18	股関節部の損傷 E 注意すべき疾患 3 大腿骨頭壊死症 4 変形性股関節症
19	期末試験
20	解答および解説

授業計画書

基本情報	科目名称	臨床柔道整復学Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	講義	前期	2年	(4)	(80)
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	小田 敏明			接骨院等勤務：9年 専門学校等勤務：9年		小田 敏明

教科書	『柔道整復学・理論編・実技編』南江堂
参考文献・資料等	『解剖学』南江堂

授業の方法及び内容	教科書で学び、プリントにまとめ、学習成果を国家試験過去問題にて確認する。 担当教員は医療施設（接骨院・整形外科等）において、9年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。
到達目標	下肢の損傷について、①分類②発生機所③症状④治療法⑤合併症を患者に説明できるようになる。また該当部位の、①骨（名称）②筋（起始・停止・作用）③神経（支配領域）を何も見ずに記述することができるようになる。
準備学習の内容	該当範囲の解剖学（骨・筋・神経）
授業期間全体を通じた授業の進め方	単元毎に小テストを実施し、学習到達度を確認する。

評価前提条件	単位認定に必要となる最低出席回数は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中 60点以上合格 平常点 0点またはマイナス 10点		

臨床柔道整復学Ⅱ（前期）授業計画

1	大腿部の損傷 A 機能と解剖
2	大腿部の損傷 B 大腿骨骨幹部の骨折 1 大腿骨骨幹部骨折①
3	大腿部の損傷 B 大腿骨骨幹部の骨折 1 大腿骨骨幹部骨折②
4	大腿部の損傷 C 大腿部の軟部組織損 1 大腿部打撲 2 大腿部肉離れ
5	大腿部の損傷 D 注意すべき疾患 1 大腿部骨化性筋炎
6	膝関節部の損傷 A 機能と解剖
7	膝関節部の損傷 B 大腿骨遠位部の骨折 1 大腿骨遠位端部骨折①
8	膝関節部の損傷 B 大腿骨遠位部の骨折 1 大腿骨遠位端部骨折②
9	膝関節部の損傷 C 下腿骨近位部の骨折 1 下腿骨近位端部骨折①
10	膝関節部の損傷 C 下腿骨近位部の骨折 1 下腿骨近位端部骨折②
11	膝関節部の損傷 D 膝関節脱臼①
12	膝関節部の損傷 D 膝関節脱臼②（それに伴う複合靭帯損傷）
13	膝関節部の損傷 E 膝蓋骨の骨折 1 膝蓋骨骨折
14	膝関節部の損傷 F 膝蓋骨脱臼 1 側方脱臼（外側脱臼）①
15	膝関節部の損傷 F 膝蓋骨脱臼 1 側方脱臼（外側脱臼）②
16	総合復習①骨盤部の損傷、股関節部の損傷、大腿部の損傷、膝関節部の損傷
17	総合復習②骨盤部の損傷、股関節部の損傷、大腿部の損傷、膝関節部の損傷
18	総合復習③骨盤部の損傷、股関節部の損傷、大腿部の損傷、膝関節部の損傷
19	期末試験
20	解答および解説

授業計画書

基本情報	科目名称	臨床柔道整復学Ⅲ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	講義	後期	2年	4	80
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	小田 敏明			接骨院等勤務：9年 専門学校等勤務：9年		小田 敏明

教科書	『柔道整復学・理論編・実技編』南江堂
参考文献・資料等	『解剖学』南江堂

授業の方法及び内容	教科書で学び、プリントにまとめ、学習成果を国家試験過去問題にて確認する。 担当教員は医療施設（接骨院・整形外科等）において、9年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。
到達目標	下肢の損傷について、①分類②発生機所③症状④治療法⑤合併症を患者に説明できるようになる。また該当部位の、①骨（名称）②筋（起始・停止・作用）③神経（支配領域）を何も見ずに記述することができるようになる。
準備学習の内容	該当範囲の解剖学（骨・筋・神経）
授業期間全体を通じた授業の進め方	単元毎に小テストを実施し、学習到達度を確認する。

評価前提条件	単位認定に必要となる最低出席回数は16回以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

臨床柔道整復学Ⅲ（後期）授業計画

1	オリエンテーション（シラバス、授業の進め方、評価方法）
2	膝関節部の損傷 G 膝関節部の軟部組織損傷 1半月板損傷
3	膝関節部の損傷 G 膝関節部の軟部組織損傷 2 靭帯損傷
4	膝関節部の損傷 G 膝関節部の軟部組織損傷 3 発育期の膝関節障害 4 腸脛靭帯炎
5	膝関節部の損傷 G 膝関節部の軟部組織損傷 5 鷲足炎 6 膝蓋大腿関節障害
6	膝関節部の損傷 G 膝関節部の軟部組織損傷 7 膝周辺の関節包、滑液包の異常 8 神経の障害
7	膝関節部の損傷 H 注意すべき疾患 1 青少年期にみられる疾患 2 中高年期にみられる疾患
8	下腿部の損傷 A 解剖と機能
9	下腿部の損傷 B 下腿骨幹部の骨折 1 下腿骨骨幹部骨折①
10	下腿部の損傷 B 下腿骨幹部の骨折 1 下腿骨骨幹部骨折②
11	下腿部の損傷 C 下腿部の軟部組織損傷 1 アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎 2 アキレス腱断裂
12	下腿部の損傷 C 下腿部の軟部組織損傷 3 下腿三頭筋の肉離れ 4 下腿部のスポーツ障害
13	下腿部の損傷 D 注意すべき疾患 1 コンパートメント症候群 2 下腿感染症 3 下腿骨腫瘍 4 下肢血管障害
14	足関節部の損傷 A 解剖と機能
15	足関節部の損傷 B 下腿骨遠位部の骨折 1 下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折①
16	足関節部の損傷 B 下腿骨遠位部の骨折 1 下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折②
17	足関節部の損傷 B 下腿骨遠位部の骨折 1 下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折②
18	総合復習 膝関節部の損傷、下腿部の損傷、足関節部の損傷
19	期末試験
20	解答および解説

授業計画書

基本情報	科目名称	臨床柔道整復学Ⅲ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	講義	後期	2年	(4)	(80)
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	小田 敏明			接骨院等勤務：9年 専門学校等勤務：9年		小田 敏明

教科書	『柔道整復学・理論編・実技編』南江堂
参考文献・資料等	『解剖学』南江堂

授業の方法及び内容	教科書で学び、プリントにまとめ、学習成果を国家試験過去問題にて確認する。 担当教員は医療施設(接骨院・整形外科等)において、9年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。
到達目標	下肢の損傷について、①分類②発生機所③症状④治療法⑤合併症を患者に説明できるようになる。また該当部位の、①骨(名称)②筋(起始・停止・作用)③神経(支配領域)を何も見ずに記述することができるようになる。
準備学習の内容	該当範囲の解剖学(骨・筋・神経)
授業期間全体を通じた授業の進め方	単元毎に小テストを実施し、学習到達度を確認する。

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

臨床柔道整復学Ⅲ（後期）授業計画

1	足関節部の損傷 C足根骨部の骨折 1足根骨骨折（距骨骨折と踵骨骨折）①
2	足関節部の損傷 C足根骨部の骨折 1足根骨骨折（距骨骨折と踵骨骨折）②
3	足関節部の損傷 D足関節部の脱臼
4	足関節部の損傷 E足関節部の軟部組織損傷 1足関節捻挫 2足関節捻挫の類症鑑別
5	足関節部の損傷 F注意すべき疾患
6	足・趾部の損傷 A解剖と機能
7	足・趾部の損傷 B足根骨の骨折 1舟状骨骨折 2立方骨骨折 3楔状骨骨折
8	足・趾部の損傷 C中手骨の骨折 1中手骨骨折①
9	足・趾部の損傷 C中手骨の骨折 1中手骨骨折②
10	足・趾部の損傷 D趾骨の骨折 1趾骨骨折
11	足・趾部の損傷 E足根部の脱臼と軟部組織損傷 1横足根関節（ショパール関節）損傷
12	足・趾部の損傷 E足根部の脱臼と軟部組織損傷 2足根中足関節（リスフラン関節）損傷
13	足・趾部の損傷 E足根部の脱臼と軟部組織損傷 3扁平足障害
14	足・趾部の損傷 F中足趾節関節、趾節間関節の脱臼
15	足・趾部の損傷 G足・趾部の軟部組織損傷 1中足部から後足部の有痛性疾患
16	足・趾部の損傷 G足・趾部の軟部組織損傷 2前足部の有痛性疾患
17	足・趾部の損傷 H注意すべき疾患
18	総合復習 足関節部の損傷、足・趾部の損傷
19	期末試験
20	解答および解説

業計画書

基本情報	科目名称	柔道整復実技Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	実技	前期・後期前半 (前期)	2年	2	60
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	水村 麻輝			接骨院等勤務：8年 専門学校等勤務：1年2ヶ月		水村 麻輝

教科書	『柔道整復学・実技編』南江堂
参考文献・資料等	柔道整復学・理論編

授業の方法及び内容	<p>パワーポイントを用いて授業を行う。前期に吸収した知識、技術の向上に努める。</p> <p>且つ現場での私の経験や実際の患者さんにはどのような処置を行うかなどを伝えていく。</p> <p>担当教員は医療施設（接骨院・整形外科等）において、8年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。</p>
到達目標	上肢の認定実技審査の項目を知識、技術の習得。
準備学習の内容	固定具の作り方や固定法、検査法の学習
授業期間全体を通じた授業の進め方	実技と臨床を交えて学習する。

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

授業計画

1	オリエンテーション
2	腱板損傷の検査法①
3	腱板損傷の検査法②
4	上腕二頭筋損傷の検査法①
5	上腕二頭筋損傷の検査法②
6	鎖骨骨折 整復
7	鎖骨骨折 固定
8	肩鎖関節脱臼 整復
9	肩鎖関節脱臼 固定
10	復習
11	上腕骨外科頸骨折 整復
12	骨折のリハビリについて
13	肩関節前方脱臼 整復
14	肩関節前方脱臼 固定
15	各疾患の固定練習
16	症例検討 レントゲンやエコーの診かた
17	試験前練習
18	期末試験
19	試験解説
20	総復習

授業計画書

基本情報	科目名称	柔道整復実技Ⅱ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	実技	前期・後期前半 (後期前半)	2年	(2)	(60)
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	水村 麻輝			接骨院等勤務：8年 専門学校等勤務：1年2ヶ月		水村 麻輝

教科書	『柔道整復学・理論編』南江堂
参考文献・資料等	柔道整復学・実技編

授業の方法及び内容	<p>パワーポイントを用いて授業を行う。前期に吸収した知識、技術の向上に努める。</p> <p>且つ現場での私の経験や実際の患者さんにはどのような処置を行うかなどを伝えていく。</p> <p>担当教員は医療施設（接骨院・整形外科等）において、8年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。</p>
到達目標	上肢の認定実技審査の項目を知識、技術の習得。
準備学習の内容	固定具の作り方や固定法、検査法の学習
授業期間全体を通じた授業の進め方	実技と臨床を交えて学習する。

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

授業計画

1	オリエンテーション
2	上肢軟部組織損傷①
3	上肢軟部組織損傷②
4	問診の仕方
5	コーレス骨折 整復
6	コーレス骨折 固定
7	舟状骨骨折 問診～固定
8	期末試験
9	試験解説
10	総復習

授業計画書

基本情報	科目名称	柔道整復実技Ⅲ				必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	実技	前期・後期前半 (前期)	2年	2	60
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	小武 悠希			接骨院等勤務：7年 専門学校等勤務：4年		小武 悠希

教科書	『柔道整復学・実技編』南江堂
参考文献・資料等	標準整形外科学

授業の方法及び内容	教科書をもとに外傷予防の知識・技術を学んでいく。 担当教員は医療施設(接骨院・整形外科等)において、7年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。
到達目標	上記を医療やスポーツの現場で実践できる。
準備学習の内容	前期運動学
授業期間全体を通じた授業の進め方	まず2人1組で徒手検査法を練習し、次に4人1組で助手を使いながら診察から徒手検査、固定などを練習する。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	ガイダンス・四肢の計測
2	四肢の計測実習
3	ハムストリングス肉ばなれの診察
4	ハムストリングス肉ばなれの診察・検査・後療法
5	大腿四頭筋打撲の診察
6	大腿四頭筋打撲の診察・検査・後療法
7	大腿周径の計測から診察までの流れの確認テスト①
8	大腿周径の計測から診察までの流れの確認テスト②
9	半月板損傷の診察
10	半月板損傷の診察・検査・後療法
11	内側側副靭帯損傷の診察
12	内側側副靭帯損傷の診察・検査・後療法
13	前十字靭帯損傷の診察・検査
14	後十字靭帯損傷の診察・検査・その他の検査
15	試験概要説明・試験前復習
16	試験前復習
17	期末試験実技
18	期末試験口頭試問
19	試験解説
20	前期総括

授業計画書

基本情報	科目名称	柔道整復実技Ⅲ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	実技	前期・後期前半 (後期前半)	2年	(2)	(60)
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	小武 悠希			接骨院等勤務：7年 専門学校等勤務：4年		小武 悠希

教科書	『柔道整復学・理論編・実技編』南江堂
参考文献・資料等	標準整形外科学

授業の方法及び内容	座学でのポイントを確認し手から実施し、各外傷の診察方法や徒手検査法、固定などの方法を学び練習していく。 担当教員は医療施設(接骨院・整形外科等)において、7年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。
到達目標	認定実技を想定した練習を通じて、医療現場でも通用するような実践的なスキルを身に付ける。
準備学習の内容	先だって、臨床柔道整復学Ⅱで座学を行います。
授業期間全体を通じた授業の進め方	まず2人1組で徒手検査法を練習し、次に4人1組で助手を使いながら診察から徒手検査、固定などを練習する。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中60点以上合格 平常点 0点またはマイナス10点		

授業計画

1	下腿三頭筋肉ばなれ診察
2	下腿三頭筋肉ばなれ診察・検査・後療法
3	足関節捻挫診察
4	足関節捻挫診察・検査・後療法
5	試験前復習
6	試験前復習
7	期末試験実技
8	期末試験口頭試問
9	試験解説
10	スポーツ外傷の処置

授業計画書

基本情報	科目名称	柔道整復実技Ⅳ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	実技	後期後半	2年	2	60
	授業担当者（所属・職名）			実務経験		成績評価責任者
	水村 麻輝			接骨院等勤務：8年 専門学校等勤務：1年2ヶ月		水村 麻輝

教科書	『柔道整復学・理論編』南江堂
参考文献・資料等	柔道整復学・実技編

授業の方法及び内容	<p>パワーポイントを用いて授業を行う。前期に吸収した知識、技術の向上に努める。</p> <p>且つ現場での私の経験や実際の患者さんにはどういう処置を行うかなどを伝えていく。</p> <p>担当教員は医療施設（接骨院・整形外科等）において、8年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。</p>
到達目標	上肢の認定実技審査の項目を知識、技術の習得。
準備学習の内容	固定具の作り方や固定法、検査法の学習
授業期間全体を通じた授業の進め方	実技と臨床を交えて学習する。

評価前提条件	単位認定に必要となる最低出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

授業計画

1	オリエンテーション
2	肩関節脱臼 整復
3	肩関節脱臼 運動療法
4	上腕骨骨幹部骨折 固定
5	肘関節後方脱臼 整復
6	肘関節後方脱臼 固定
7	肘内障
8	期末試験
9	試験解説
10	総復習

授業計画書

基本情報	科目名称	柔道整復実技Ⅳ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	実技	後期後半	2年	(2)	(60)
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	水村 麻輝			接骨院等勤務：8年 専門学校等勤務：1年2ヶ月		水村 麻輝

教科書	『柔道整復学・理論編』南江堂
参考文献・資料等	柔道整復学・実技編

授業の方法及び内容	<p>パワーポイントを用いて授業を行う。前期に吸収した知識、技術の向上に努める。</p> <p>且つ現場での私の経験や実際の患者さんにはどういう処置を行うかなどを伝えていく。</p> <p>担当教員は医療施設(接骨院・整形外科等)において、8年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。</p>
到達目標	上肢の認定実技審査の項目を知識、技術の習得。
準備学習の内容	固定具の作り方や固定法、検査法の学習
授業期間全体を通じた授業の進め方	実技と臨床を交えて学習する。

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験100点満点中60点以上合格 平常点0点またはマイナス10点		

授業計画

1	オリエンテーション
2	PIP 関節背側脱臼 固定
3	ボクサー骨折 整復 後療法
4	指の疾患の判断、対処法
5	手関節の触診 判断法
6	ドケルバン病 CM 関節症 固定具作成
7	指骨折、脱臼の復習
8	期末試験
9	試験解説
10	総復習

授業計画書

基本情報	科目名称	柔道整復実技Ⅳ			履修区分	必修
	科目区分	授業形態	開講時期	学年	単位数	授業時間数
	専門分野	実技	後期後半	2年	(2)	(60)
	授業担当者(所属・職名)			実務経験		成績評価責任者
	小武 悠希			接骨院等勤務：7年 専門学校等勤務：4年		小武 悠希

教科書	『柔道整復学・理論編・実技編』南江堂
参考文献・資料等	標準整形外科学

授業の方法及び内容	座学でのポイントを確認し手から実施し、各外傷の診察方法や徒手検査法、固定などの方法を学び練習していく。 担当教員は医療施設（接骨院・整形外科等）において、7年間勤務した経験があり、実務経験に基づいて柔道整復師養成に向けた授業を展開する。
到達目標	認定実技を想定した練習を通じて、医療現場でも通用するような実践的なスキルを身に付ける。
準備学習の内容	先だって、臨床柔道整復学Ⅱで座学を行います。
授業期間全体を通じた授業の進め方	まず2人1組で徒手検査法を練習し、次に4人1組で助手を使いながら診察から徒手検査、固定などを練習する。

評価前提条件	単位認定に必要となる出席率は80%以上。		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	優	100点～80点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	良	79点～70点	優れた成績を表し、不十分な点は認められるもの到達目標をほぼ達成している。
	可	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標の最低限は満たしている。
	不可	59点～0点	合格と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足していない。
評価方法	定期試験 100点満点中 60点以上合格 平常点 0点またはマイナス 10点		

授業計画

1	下腿骨骨幹部骨折固定
2	下腿骨骨幹部骨折固定
3	アキレス腱断裂固定
4	アキレス腱断裂固定
5	症例報告作成
6	症例報告作成
7	症例報告発表
8	症例報告発表
9	総評
10	1年の総まとめ